

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	勝山市立勝山中部中学校					
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	1	12	27
生徒数	120	127	140	7	394	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付け、生き生きと自己表現できる生徒の育成
------------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

少人数学習

- ・ 1～3年生 数学  
生徒の理解・定着度に差が出やすい教科であるため。
- ・ 1～3年生 英語  
生徒の理解・定着度に差が出やすい教科であるため。

TT指導

- ・ 3年生 理科  
実験が重視される教科であり、その準備や個別指導をTTで協力して進めるため。

その他の取組み（従来の体制中での指導改善）

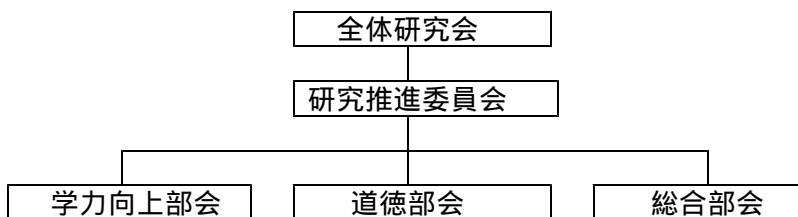
- ・ 1～3年生 その他の全教科  
全体的に学習意欲が低く、基礎・基本的な力が十分身につけていない生徒も少なくないという生徒の実態から、全教科において学習意欲を高め、基礎学力を定着させる努力が必要であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生徒の学習実態を把握し、学力向上に向けての研究の方向性を定める。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査等を通して、本校生徒の学習状況の実態を把握する。</li> <li>・ 学力向上に向けた取組みを試行する。</li> <li>・ 実践の成果と課題をとらえ、本校の研究の方向性を定める。</li> <li>・ 研究体制を整え、2年次に向けた準備をする。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容を定着させる予習教材や復習教材の作成</li> <li>・ 到達度に基づいた個別学習の工夫</li> <li>・ 「学習評価カード」の作成と活用</li> </ul> <p>(2) 指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別少人数学習（数学科・英語科）</li> <li>・ TT指導（理科）</li> </ul> <p>(4) その他の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の興味関心を高める導入や課題設定の工夫</li> <li>・ 学習課題の明確化と提示</li> <li>・ 基礎的な知識を定着させるための授業改善</li> <li>・ ドリル学習に対する意欲づけの工夫</li> </ul>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 学習基盤を整えるとともに、学習技能の向上・基礎学力の定着を図る。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ルールを徹底させるとともに、学習に向かおうとする心情や姿勢を育てる。</li> <li>・すべての学習の基礎となる学習技能を高める。</li> <li>・指導体制の工夫や授業改善を通して、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・定期的にアンケート調査等を実施し、成果と課題を確かめながら研究と実践を進める。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)学習基盤を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習ルール」の明確化と徹底。</li> <li>・学習に向かおうとする心情や姿勢を育てる。</li> </ul> <p>(2)「学習技能」を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能向上を目指した教科（国語・数学）での「読み・書き・計算」の力を高める取組み。</li> <li>・S T（ドリル学習の時間）の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く」力の育成</li> <li>・読書タイムの充実</li> <li>・日記指導</li> </ul> </li> </ul> <p>(3)「基礎学力」の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な少人数学習・T T指導のあり方の研究</li> <li>・「基礎学力」を定着させるための授業改善</li> <li>・学習意欲を高めるための工夫</li> </ul>
----------------	---

(3)研究推進体制（平成15年度）



平成15年度の研究成果および今後の課題

1. 研究の成果

(1)「学習技能」を高める取組み

S Tの時間……帰りの「学級の時間」に15分間のドリル学習を実施（月曜以外の週4回）

【今年度1学年の例】

留意点

- ・検定（漢字検定・数学検定）に挑戦することで、意欲をもたせる。
- ・自分のレベルに合わせて取り組ませる。
- ・担任も生徒とともに挑戦する。

実施内容

1学期……漢字      2学期……計算      3学期……英単語、英熟語

1学期（漢字）の取組み

- 初級 6級（小5までの漢字）
- 中級 5級（小6までの漢字）……中1での到達目標
- 上級 4級（中1までの漢字）……中2での到達目標

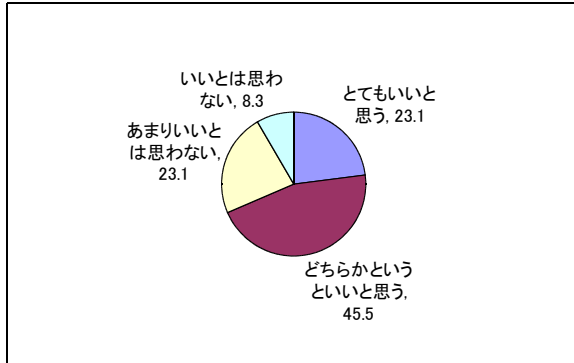
実施方法

- ・市販のテキストを1ステップずつ家で練習してくる。
- ・翌日のS Tの時間に、練習してきたステップのテストをする。
- ・80%以上正解で合格、次のステップへ。不合格の時は再び同じステップに挑む。

成果と課題

- ・夏休み中の登校日に全員漢字検定を受検。合格率は69%だった。
- ・このような取組みに対する生徒の反応は次のようであった。

< 漢字検定や数学検定への取組みについて >



いいと思う理由

- ・能力が身につく。役に立つ。
- ・資格が取れる。
- ・合格するとうれしい。
- ・挑戦はいいことだ。
- ・達成感があった。

いいとは思わない理由

- ・強制されるのがいや。
- ・めんどろだ。
- ・落ちるとお金のムダ。
- ・授業に関する勉強の時間が少なくなる。

3分の2の生徒は肯定的に評価している。否定的な意見では、「受検を強制されたくない」という意見が多かった。

(2) 「基礎学力」の定着を図る取組み

A、個に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善

ア、習熟度別少人数学習（数学科を例に）

グループ編成

全学年で、2学級を次のような3グループに分けている。

- 「スタンダード」2グループ  
(標準的な進み方のコース)
- 「ベーシック」1グループ  
(基礎を中心にじっくりと時間をかけて進むコース。具体物を使った実験や操作活動を十分に入れながら進める。人数は15人まで。)

編成方法.....教材の領域ごとに生徒の希望調査をもとに編成。

成果と課題

15年12月のアンケート調査結果より 「数学の少人数学習についてどう思うか」

【スタンダードで授業を受けることが多かった生徒】

	いいと思う	どちらでもいい	いいとは思わない
1学年(87人中)	57.5%	39.1	3.4
2学年(90人中)	47.8	45.6	6.7
3学年(117人中)	59.8	38.5	1.7

いいと思う理由

- ・自分のレベルに合わせた学習ができる。
- ・授業がはかどる。
- ・少人数だとよく見てもらえる
- ・発表しやすい。
- ・先生に聞きやすい。

どちらでもいい理由

- ・あまり変わらない。
- ・学習内容は同じ。

いいとは思わない理由

- ・少人数だとしゃべってしまう。
- ・ベーシックは頭が悪いというイメージがある。

【ベーシックで授業を受けることが多かった生徒】

	いいと思う	どちらでもいい	いいとは思わない
1 学年 (33 人中)	60.6%	39.4	0
2 学年 (26 人中)	57.7	34.6	7.7
3 学年 (13 人中)	84.6	15.4	0

いいと思う理由

- ・一人ひとりに分かりやすく教えてくれる。
- ・ゆっくり進む。
- ・意見を言いやすい。
- ・質問しやすい。

どちらでもいい理由

- ・あまり変わらない。
- ・少人数だとしゃべってしまう。

いいとは思わない理由

- ・ベーシックは頭が悪いというイメージがある。
- ・授業にズレが起こる。

- ・習熟度別少人数学習を肯定的にとらえている生徒は、否定的な生徒に比べると圧倒的に多い。特にその傾向はベーシックの生徒に顕著で、「いいと思う理由」を見ても個に応じたきめ細かな指導として一応の成果を挙げていることが分かる。
- ・しかし、習熟度別少人数学習を実施する上で浮かび上がってきた問題点もいくつかある。ベーシックには学習に向かう姿勢に問題のある生徒が集まりやすく、それが授業の妨げとなることがある。ベーシックでは基本的な内容の学習に時間をかけるため、スタンダードとの間で学習内容に差が出てきてしまう。しかし、受けるテストはどちらのコースも同じである。(指導内容が違うのだからテストや評価規準もコース毎に設定すべきなのか。)コース選択は本人の希望制で行っているにもかかわらず、アンケート結果にもあるように、「ベーシックは頭が悪いというイメージ」を持つ生徒もいる。劣等感や優越感を抱かせないで習熟度別学習を行うためにはどのような配慮が必要なのか。( ~ の理由によるものと考えられるが)学年が進むにつれてベーシックの希望者が減り、本来ならベーシックで受けた方がいい生徒がスタンダードに混じっている。そのため、習熟度別少人数学習が(特にスタンダードにおいて)本来の機能を十分に果たすことができていない。ベーシックでは生徒同士の教え合いが成り立たない。先生対生徒のやり取りに終始しがちで、友達から学ぶという場面があまりない。以上のような理由により、次年度は等質の少人数学習の方がいいのではないかと、という声も担当者から出ている。十分に検討して次年度のスタートを切りたい。

イ、TT指導(理科)

今年度は3学年で実施、週2時間をTTにしている。

今年度の取組みの重点事項

TTで授業を行う際、サブティーチャーの役割として、「より多くの演示実験を取り入れる」こと、「授業中(特に実験時)の評価を行う」ことに重点を置いた。生徒の興味・関心をひく演示実験を研究・開発し、授業に取り入れた。

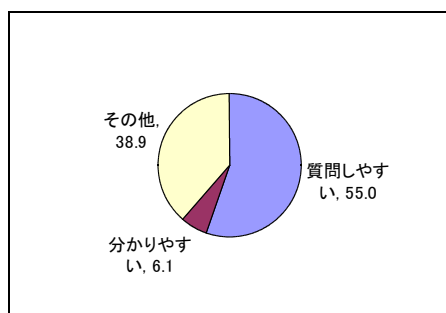
<例> ・アルミ缶とスチール缶を使った電池

- ・大気圧によるアルミ缶つぶし
- ・OHPを使用して、実像のできる位置や大きさを考察
- ・コンピュータを使って、音の波形を観察
- ・連続写真によって、見かけの動きを説明
- ・コンピュータシミュレーションで、星の動きの視覚的な把握
- ・地球の位置にビデオカメラを設置し、地球から見た金星の満ち欠けを確認 etc.

生徒の疑問やつまずきにきめ細かに対応できるように心がけた。

## 成果と課題

### 理科のTTでよかったと思う時



#### 「その他」の内容

- ・授業がスムーズ。
- ・実験が進めやすい。
- ・二人のコンビが楽しい。
- ・無回答

- ・実験の準備や評価をスムーズに進めることができ、一人の時より多くの演示実験ができた。また、生徒の質問にもいち早く答えることもでき、個別指導という点からもTTの形態は有効であった。生徒からも、「わからないところをすぐ聞ける」「気軽に質問できる」といった声が多かった。
- ・しかし、打ち合わせの時間が取りにくいこともあり、サブティーチャーが補佐的な役割しか果たせなかったことが問題点である。サブティーチャーがより積極的な役割を果たすことができるような、題材や指導場面に応じた指導形態の使い分けを実践研究していく必要がある。

以下は、各教科における取組みの概要のみ。

## ウ、個別指導

### 【技術科】

#### 1 実践テーマ

一人ひとりの目標と実際に合わせた個別指導

#### 2 実践内容

- (1) 学習課題から一人ひとりに、独創的で具体的な作品製作のイメージを持たせる。  
例... 1つの材料から10通りの木材製品を自分で選ぶ。更に自分の個性ある工夫をつけ加えた作品づくりを一人ひとりが目標に持つ。
- (2) 製作段階では、目標通りにいかないつまずきが出てくる。それぞれの生徒独自のつまずきを、一人ひとりと一緒に原因を考え対策をとっていく個別指導を授業の核にしていく。

#### 3 成果と課題

- (1) 全体の中で埋もれがちな一人ひとりのつまずきを把握することができる。また、その場でその生徒のレベルに合わせて原因を考え、具体的な対策の道筋を示すことができる。
- (2) TTが必要なほど忙しいので、一定段階まで進んだ生徒には、コーチ役をお願いしている。

## B、「基礎学力」を定着させるための授業改善

### 【国語科】

#### 1 実践テーマ

到達度に応じた個別指導の導入 —— マスタリーラーニングの試み

#### 2 実践内容

##### (1) 到達度に基づいた補充・発展学習

定着度に差が出やすい内容（文法・古典など）を学習する際には、単元の後半に、それまでの達成度を診断するための評価活動（診断テスト等）を入れ、その結果に基づいて補充学習や発展学習に取り組みさせる。

診断テストや補充（発展）学習のための教材は、各学年担当者が作成、教科会で検討した上で全クラスが使用する。そのために、教科会をなるべく小刻みに開いて、教材のねらいや身に付けるべき力を共通理解した上で指導に入る。

限られた時間数の中で上記の活動を行うためにも、ポイントを絞った指導を心がける。

### (2) 学習評価カードの作成

生徒にあらかじめ学習の見通しをもたせ、めあてをもって学習に臨ませるとともに、毎時間の達成度を自分で評価・確認させる。（教師側は、生徒の達成度の把握と指導改善に生かす）

## 3 成果と課題

(1) 上記のような取組みを入れることによって、生徒たちは普段よりも意欲的に取り組んでいた。「評価に基づいた補充・発展学習」では、一人ひとりのつまづきに応じた個別の指導も行うことができた。

(2) 教科会を当初の予定通りには開くことができず、限られた教材でしか実践することができなかった。次年度は年間計画の中にあらかじめ位置づけて実践を数多く積み、診断テストや補充（発展）教材、学習評価カードの改良、指導方法の改善等を重ねていきたい。

## 【社会科】

### 1 実践テーマ

生徒が授業に集中し、意欲的に取り組むための工夫・改善

### 2 実践内容

(1) 授業開始直後の活動は、「知識・理解」をおさえる。

知識詰め込みがたの教育を脱却しようとする現在でも、「知識・理解」は不可欠なものである。「知識・理解」がなければ、社会的な思考・判断もすることができず、資料の活用も十分に行うことはできない。そこで、授業開始直後は「知識・理解」をおさえることを第一の目的として活動を行う。

- ・ 前時の学習内容範囲のワーク、小プリントの取組み。
- ・ 基礎事項の暗唱指導。
- ・ 本時における学習内容範囲の教科書音読指導。
- ・ 課題として提出した「予習プリント」の確認。

教師によって方法などには多少の違いはあるが、以上のような取組みを行っている。復習・予習をかねた導入活動で、以降に展開される授業内容の内部情報を蓄積した上で活動に入る。

(2) 「関心・意欲」を高める展開前の導入を工夫する。

学力を向上させるためには、題材への「関心・意欲」を高めることが必要である。教材への関心を持ち、意欲的に活動できなければ、学力の向上は望めない。そのため、導入で生徒の気持ちを揺さぶり、生徒が「知りたい」「考えたい」「調べたい」と感じられるように工夫する。各単元に活用できる導入教材、特に視聴覚教材の開発に取り組む。

## 3 成果と課題

(1) 基礎知識の定着が見られ、基礎知識を基にした思考・判断もできるようになってきている。また授業開始後の活動として行うことで、50分間の学習自体への集中力・意欲を持つことができ、二重の効果となっている。

(2) 適切な教材の開発が容易でない状況にあり、今後も創意工夫が必要である。また視聴覚機器の不足、準備の手間なども問題である。しかし、適切な教材を生徒に提供できた場合の効果は絶大である。

## 【美術科】

### 1 実践テーマ

美術科における基礎基本の定着のための家庭学習の支援のあり方

### 2 実践内容

(1) 1学年では毎週テーマを与えて週間スケッチをさせる。描いてきたスケッチにはスタンプで評価し更に指導者からのコメントを書く。授業の最後の五分間程度で必要な技術を全体指導する。各自のスケッチの中から選んでコピーを掲示する。

(2) 2学年では隔週で発想トレーニングとしてワークブックを与えて描かせる。スタンプで

評価し指導者からのコメントを書く。

### 3 成果と課題

- (1) 1学年では多くの生徒の技能が向上している。しかし、スケッチが苦手な生徒に対する支援が困難であることも事実である。自然と意欲が減退し、提出の回数も減っている。また、スケッチの課題の難易度も少しずつ高めているが、技術指導との兼ね合いも困難となりつつある。
- (2) 2学年では課題提出の意欲が減退した状態で、継続して提出できない生徒が多い。発想することの楽しさ、自由さを味わおうとする意欲を喚起させる支援をしなければならない。そのために発表の機会を工夫する必要性を感じている。

## C、興味・関心・意欲を高める工夫

### 【数学科】

#### 1 実践テーマ

生徒の興味・関心・意欲を高めるための導入の工夫

#### 2 実践内容

- (1)各単元の導入において、生徒にとって身近なものを教材として扱うようにする。
- (2)同じく導入において、操作的な活動や実験的な活動を取り入れるようにする。

〔具体的な例〕

- 1年生・・・比例を扱うときに、点滴の用具を用い、時間と容器に貯まる水量との関係をグラフ上に表してみる。
- 2年生・・・一次関数を扱うときに、線香を使い、実際に燃やし、定時間毎にグラフ用紙上に、跡を記す。
- 3年生・・・平方根を扱うとき、いろいろな面積をもつ正方形を作図し、そこから平方根につなげていく。

#### 3 成果と課題

多くの生徒は、新しい単元に入るとき『今度は、どんなことをするのだろう。』という興味や関心を十分持って授業に臨むことが多い。そこで、実際の生活の中にあるものが数学と深い関わりをもっていることを知ることは、生徒にとっては数学を身近に感じる第一歩である。また、有用性を多少なりとも感じられると思われる。

実際に操作活動や実験をしているときは、実感がともなうので喜んで取り組んでいた。その後、同じような例を、生活の中から、多く見つけていた。これは、実際に体験したことが生かされたからだと考えられる。これからも、このような活動は多く取り入れていくことが大切だと思われる。ただ、問題点もある。実験には、喜んで取り組むが、それ以降の学習内容とギャップがあり、つながらないようなときもある。教材、教具を吟味し、発展性のあるものを開発していく必要がある。

### 【英語科】

#### 1 実践テーマ

生徒の興味・関心を高める教材づくり

#### 2 実践内容

- (1) 導入時に写真・DVD・実物などを使い、視聴覚的素材を通して学習に入る工夫をした。
- (2) 学習項目の定着を図る教材を工夫した。例えば、インタビュー活動やクイズ・スピーチづくりなど、学習した文法項目を実際に使う場を設定した。
- (3) 発展的な学習のための教材づくりとして、スキットづくりやロールプレイ活動を取り入れ、教科書本文から発展した内容の教材開発にも力を入れた。
- (4) 国際理解のための教材としては、ALTが掲示板づくり、昼の校内放送、コンテスト、手紙交換等を通じて、授業以外でも積極的に生徒たちと交流し、身近に英語と接する機会を多く作った。

### 3 成果と課題

これらの教材や言語活動を通して生徒たちの興味・関心が高まって、それが目に見える点数の向上につながっているか。

#### 【音楽科】

##### 1 実践テーマ

日本の伝統音楽に対する興味・関心の高め方

##### 2 実践内容

- (1) 1年の「雅楽」では、実際の楽器を準備できないので、レーザーディスクやビデオ、資料（写真、地図、教科書）を用いた。
- (2) 日本とアジアの楽器を比較しながら、互いの音楽文化を印象づけていった。特に、音色への意識を高めようと、自分の心に感じたままの表現で記述させた。
- (3) 2年の「日本の歌」では、数曲にしぼり、その中からグループごとに演奏させた。伴奏や曲の構成、雰囲気作りを工夫させた。毎回、数項目についての評価と工夫・感じたままを記述させた。
- (4) 2・3年選択音楽の「三味線」では、地元の講師2名に来ていただき、三味線と横笛をお習いした。

##### 3 成果と課題

- (1) 3学期には、琴（箏）の実体験を行うことで「雅楽」を思い起こさせ、更に日本の伝統音楽への興味・関心を図る予定である。2学期は、視聴覚教材を用いたことで、わりあい関心を持って授業に取り組んでいた。
- (2) 日本の歌の紹介が足早であったせいか、深く興味を示さないままグループ練習に入ってしまったのが残念である。練習しやすいように移調した伴奏テープを準備したことで、構成にも工夫が生まれていた。
- (3) 地元の方の協力なくしては、伝統音楽の継承はあり得ない。授業時間の確保は言うまでもなく、時間の設定や謝礼についても問題が残されている。

#### 【保健体育科】

##### 1 実践テーマ

導入時の動機づけの工夫

##### 2 実践内容

- (1) 柔道では、単元の目標・内容を体育館黒板に掲示して、毎時間の学習内容がわかるようにした。
  - ・単元はじめに、学校体育実技指導者派遣事業で石橋講師を招いてチームティーチングを行うことができた。技のポイントをわかりやすく教えていただいたり、二人で「受け」と「取り」にわかれ見本を見せることができた。
- (2) ダンスでは、文化祭にてヒップホップダンスのワークショップを行い、それにつなげてW - アップで簡単なステップやカウントのとり方を練習した。
  - ・2、3年生は自分たちで音楽を選び、踊りも自分たちで考えた。カウントをしっかりとりながら考えることを課題にした。

##### 3 成果と課題

- (1) 単元の目標や内容を掲示したことで、生徒は自己の課題を持って学習に取り組むことができた。また、石橋先生からの受ける専門的な学習が、生徒の柔道に関する関心・意欲や礼儀作法の意識を高めることにつながった。
- (2) W - アップの動きを取り入れたり、カウントのとり方に気をつけたりしながら、例年よりも運動量の多い創作時間であった。オリエンテーションでライブのVTRを見たことも、関心が高まった要因になっていると感じた。

ただ、ヒップホップにこだわらないでいろいろなダンスに対応できるよう、教師側の研修もまだまだ必要だと感じている。



## 2. 今後の課題

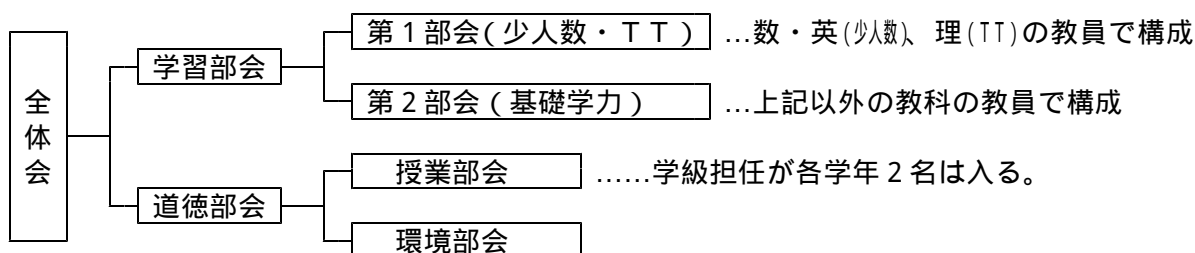
1年次は本校生徒の学習実態を把握し、それを改善するための実践を試みてきた。現段階では目に見えた成果が得られたとは言えないが、2年次に向けての課題はかなり明らかになってきた。研究体制や研究方法を見直した上で2年次に入っていきたい。

### 平成16年度 研究構想

#### (1)方針

研究組織を見直し、全教員が一致して研究を推進することができるような体制にする。  
 研究対象を明確にし、焦点を絞った研究実践に努める。  
 十分な打ち合わせをすることができるよう、教科会を時間割の中に組み込んで定期的に開く。  
 校内授業研究会を充実させ、互いに学び合う機会を多くする。

#### (2)研究組織



#### (3)研究内容

##### A、学習基盤を整える。

【 担 当 】

授業における「学習ルール」 家庭学習など、学習習慣をつけるための「学習ルール」 *今年度中に明確にし、4月より徹底指導する。	今年度の 「学力向上部会」 で作成。
道徳において、学習に向かおうとする心情や姿勢を育てる。	道徳部会

##### B、「学習技能」を高める。

技能向上を目指した教科での取り組み。	国語・数学	第2部会
S Tの時間の充実 意欲を高め、効果を上げる方法の開発。 「話す・聞く」機会を多く作る。	各学年 ・各学級	
読書タイムの充実 日記指導	各学級	

##### C、「基礎学力」の定着を図る。

効果的な少人数学習・TT指導のあり方の研究 ・コースの種類、人数、担当者 ・適切なコース分けの方法 ・少人数学習にふさわしい、授業方法・授業技術の開発 ・少人数学習にふさわしい、生徒への支援や評価のあり方 ・TTの指導形態の工夫と使い分け	第1部会
「基礎学力」を定着させるための授業改善 ・各単元でのポイントの明確化。それを徹底させる方法の工夫。 ・家庭学習を充実させるための方法の工夫。	第2部会
学習意欲を高めるための工夫 ・生徒の興味関心を呼び起こす導入のあり方 ・学習意欲を引き出す課題設定の仕方 ・生徒の生活や体験と結びつけた学習展開	

学力把握のための学校としての取組み  
第1回「学習に関するアンケート調査」

調査の目的	本校生徒の学習に関する意識や習慣等の実態を把握するため。
実施内容	平成14年度「福井県学力調査」の際に行われたアンケート調査と同じものを全員に実施し、県平均と比較することで本校生徒の傾向をつかもうとした。内容は、授業の理解度、学習に対する興味関心、学習時間、学習習慣など。
実施時期	平成15年5月

第2回「学習に関するアンケート調査」

調査の目的	学力向上に関して、今年度実践してきた取組みの成果と課題を明らかにするため。
実施内容	第1回のアンケートに加え、少人数学習やT・T・ドリル学習に対する生徒の意識、生徒が望む授業の在り方などを問うもの。
実施時期	平成15年12月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及  
研究会、説明会等の開催実績

名 称	公開授業研究会および教育講演会
日 時	平成15年10月31日
場 所	本 校
対 象	勝山市、大野市、大野郡、坂井郡の全小中学校に案内。
会の目的	習熟度別少人数学習（数学）の公開授業研究。学力向上に関する講演。

「平成15年度教育実践録」を作成し、市内全小中学校に配付予定（3月）。

フロンティアティーチャーとしての活動実績

- ・平成15年8月12日、「学力向上フロンティア講演会（奥越・坂井地区別協議会）」にて、本校の1学期の取組みについて発表。
- ・平成16年1月22日、「第2回県教務主任研修会および学力向上推進協議会」にて、本校の1年目の取組みについて発表予定。

---

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～5学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	